

2022年6月9日
一般社団法人 Jミルク

持続可能社会へ 酪農乳業ができる貢献は 研究者、酪農乳業専門家ら招き 21日にシンポ

Jミルクは6月21日(火)、「持続可能な社会の実現に向けて酪農乳業はどのような貢献ができるのか」をテーマにシンポジウムを開催します。

持続可能社会やSDGsの実現に向けては、社会、経済、環境、栄養(健康)といった多様な分野からのアプローチが必要となります。このため、Jミルクが運営事務局を務める「牛乳乳製品健康科学会議」「乳の社会文化ネットワーク」「牛乳食育研究会」の各研究者組織で構成する「乳の学術連合」が、酪農乳業のSDGsのモデル構築を目指す領域横断的な共同研究を、2019年度から行ってきました。

今年3月には、その成果の一つとして『持続可能な酪農—SDGsへの貢献—』(編著者=木村純子・法政大学経営学部教授、中村丁次・神奈川県立保健福祉大学学長/中央法規出版)が刊行されました。

共同研究の過程で、SDGs実現のための取り組みを社会実装していく上で、研究者だけでなく消費者や酪農乳業関係者も参加したオープンな対話を通して情報や課題を共有することの必要性も認識されています。

なお、本シンポジウムはこうした背景から、広い立場の方に参加してもらい議論を深めてもらおうと、Jミルクの初めての試みとしてラウンドテーブル方式で開催します。

開催概要は下記の通りです。

記

- 日時：2022年6月21日(火) 14:00~17:00(予定)
- 会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都新宿区市谷八幡町8)
オンライン(Zoom)を併用
- テーマ：「持続可能な社会の実現に向けて酪農乳業はどのような貢献ができるのか」

■参加人数：定員 70 人（うち、会場参加は最大 10 名＝先着）

■申し込み：「乳の学術連合」ホームページ

<https://m-alliance.j-milk.jp/jmilk-news/2022news/detail/0621.html>

からお願いいたします。

■プログラム（予定）

開会（14:00）

<第1部>基調講演と論点整理（14:05～15:20）

▽基調講演1「地域社会の持続可能性と酪農乳業の役割・機能」

法政大学経営学部教授 木村純子氏

▽基調講演2「持続可能なミルクバリューチェーンと学校給食」

東京農業大学国際食料情報学部教授 大江靖雄氏

▽論点整理とラウンドテーブル・ディスカッションの方向づけ

乳の社会文化ネットワーク幹事 前田浩史氏

<第2部>ラウンドテーブル・ディスカッション（15:30～16:50）

テーマ「社会・経済・環境・栄養のバランスの取れた酪農乳業の持続可能性とは」

ファシリテーター：乳の社会文化ネットワーク幹事 前田浩史氏

パネリスト：

・神奈川県立保健福祉大学学長 中村丁次氏

・広島大学名誉教授 角屋重樹氏

・法政大学経営学部教授 木村純子氏

・東京農業大学国際食料情報学部教授 大江靖雄氏

・北海道大学大学院農学研究院准教授 清水池義治氏

・トモエ乳業株式会社代表取締役社長 中田俊之氏

・全国酪農業協同組合連合会総合企画室長 丹戸靖氏

総括（16:50～17:00）

以 上

※概要はJミルクホームページ（<https://www.j-milk.jp/news/2022sdgsdairy.html>）でも掲載しています。

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人Jミルク

学術調査グループ

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階

電話：03-5577-7494